

学生生活を充実させるためには？ ～ 高知工科大学学生の視点から ～

1120405 三宅 裕貴

高知工科大学マネジメント学部

1 概要

本研究は、筆者自身が抱えていた学生生活に対する不満や問題意識から、どのように今の充実した生活に変わったのかをマズローの分析モデルを基に自己分析を行うその結果に基づき、他の学生にも充実した学生生活を送ってもらうための一提案を行う。

2 背景

2.1 大学の学生生活の現状

2002 年に四国地方の二つの大学の学生に対して行った大学生活に関する満足度調査では、満足していない学生が 50% 存在しているという結果が得られている(図 1) [1]。私自身、大学生活を送っていて、高知工大でもそれほど変わらない現状に感じる。

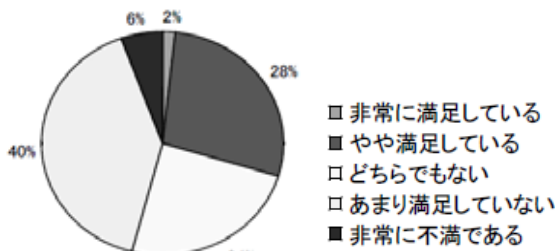


図 1 大学生活に関する満足度調査[1]

2.2 モチベーション

モチベーションとは、マズローの欲求段階説によると人が一定の方向や目標に向かって行動し、それを維持する働きであり、二つの要因から構成される[2]。一つは高次の欲求、人の内部・心にあり、行動を引き起こす。もう一つは低次の欲求、外部から報酬を与えて、モチベーションを向上させようとする手法である。

2.4 幸せみかん山

特定非営利活動法人「輝くいのち」が、後継者不在で荒れていくばかりであった高知県香南市野市町東佐古に位置するみかん農園を 2011 年 3 月から「幸せみかん山」として運営しており、私も「みかん狩り」でスタッフとして参加させてもらった。自然の中で活動を行ったことで、自分の中で世界観が変わった。また外部の人と関わったことで、研究室リーダーをやらせてもらった時に下がったモチベーションを上げることができ、そのモチベーションを

現在も継続させることが出来ているので、充実した生活を送ることができている。

2.3 問題意識

現在では、「たまにやる気になれるが、すぐにやる気が途絶えてしまう」やらなければいけない事自体に興味がない」などの気持ちを持った学生が増えてきている。私も 3 回生時までは好きなこと以外に興味を持たず、それ以外の活動に興味を示そうとしなかった。4 回生になって学内や学外での活動を体験した時に、仕事に対して、楽しさや充実感を覚え、活動に対しての意識を変えることが出来た。

そこで以前の自分の様に意欲の湧かない学生に、生活を充実させてもらうための方法を考えた。

3 研究目的

自分自身の大学生活の自己分析を行う以前の自分と似た、やる気や物事に興味を持つことが出来ない学生に対して、充実した生活を送ってもらうための一提案を行う。

4 研究方法

4.1 マズローの分析モデル

例として「社会的欲求」(集団に属したい、仲間が欲しい)があり、この欲求が満たされない場合、人は孤独感や社会的不安を感じやすくなる。この欲求は、外的に満たされたいという思いから発生する欲求である。

三つの欲求が満たされると、「尊厳欲求」(他者から認められたい)という欲求が芽生える。ここからは内的な心を満たしたいという欲求へと変化する。そして、最後に「自己実現欲求」(自分の能力を引き出し創造的活動がしたいなど)の欲求が生まれる。



図 2 マズローの分析モデル[2]

4.2 自己分析

本研究の背景になっている自分自身の経験から自己分析を行った。マズローの分析モデルに私の経験(図3、図4)を当てはめると、活動開始時、その活動に対して責任感が働き(尊厳欲求)、活動をするにつれて、楽しさを見つけ、またその中で自分の能力の向上を図る(自己実現欲求)傾向があった。

その結果、モチベーションが上がり、次に行った活動にも気持ちを切らさずに行うことが出来き、そこで自信をつけ、次の活動に活かすことが出来た。また、モチベーションが下がった場合もあった。開始時には責任感(尊厳欲求)が働いたが、不安と仕事の大変さを感じたことが、その理由であった。

10月に入った頃、渡邊法美教授に幸せみかん山を紹介してもらい、2011年10月16日から幸せみかん山の活動に関わらせてもらった。私のモチベーションは、研究室リーダーを体験させてもらったことで、仕事の大変さや不安から孤独を感じ、尊厳欲求の充足から社会的欲求の充足へと「下がって」いった。

ところが、幸せみかん山でみかん狩りのスタッフをさせてもらい、受付や配送・昼食の準備(釜炊き)をさせてもらったことで、活動に対して充実感を覚えた。地域住民の方々・自然と触れ合いながら作業することで、社会的欲求が満たされていき、モチベーションを尊厳欲求へと上げることが出来た(図5)。

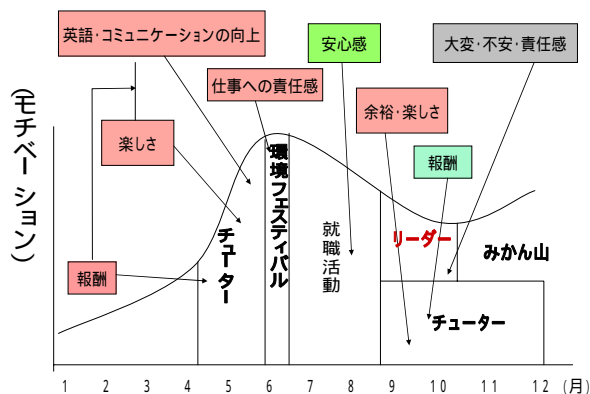


図3 2011年のモチベーション変化の自己分析

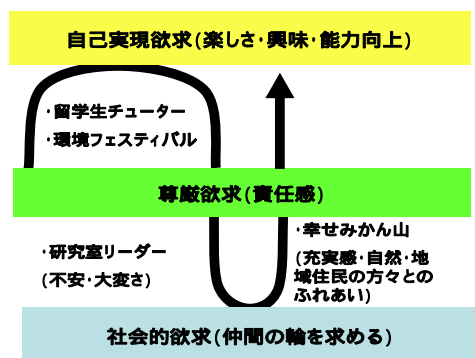


図4 マズローの分析モデルによる自己分析

しあわせみかん山

・きっかけ:みかん山でギターを弾くように頼まれる

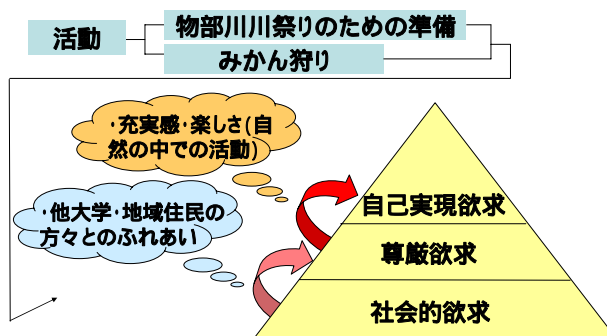


図5 幸せみかん山での活動と体験後の変化

4.3 結果

筆者の大学生生活では、行動開始時のモチベーションが社会的や自己実現の欲求である場合、マズローのモデルにある「生理的欲求」と「安全欲求」のモチベーションはすでに満たされていた。また例えば、怪我をしたことによって安全欲求が満たされなくなった場合、上位のモチベーションが下がっていった。この時、下位の欲求を満たすことで、再び上位欲求の充足へと上昇させることが出来た。したがって、私の大学生生活の欲求充足の過程は、マズローの分析モデルにおける「上位欲求は下位欲求を充足して初めて充足出来る」という説に合致した。

ただし、欲求充足の段階は、時間とともに変化する。このため、「今、自分はどの段階の欲求を充足しようとしているのか」を知ることが大切であると考えられる。

4.4 提案

- ・1. 教員は学生と丁寧に向き合い、学生の欲求段階を知る。
- ・2. 学生が充足を強く希望している欲求を満たすための活動を勧める。(きっかけを作る)
- ・3. 適宜、この手順を繰り返していく。

大学で学生の身近にいる存在であり、学生に多くのきっかけを与えることが出来るため、教員は学生の欲求段階を知り、充足を求めることへのきっかけを作る。

これを繰り返すことによって、学生に充実した生活を送ってもらうことが出来ると考えられる。

参考文献

- [1] 牧野幸志・森裕紀子, 大学生生活への満足度に関する教育心理学的研究?
http://www.takamatsu-u.ac.jp/library/06_gakunaisyupan/kiyo/no37/37_059-072_makino.pdf 2012年02月27日
- [2] J.R. SCHERMERHORN, MANAGEMENT Sixth Edition, John Wiley & Sons, Inc. 1999
- [3] 矢野真和, 生活時間の社会学, 東京大学出版会 1995